



－学校・保護者・地域とともに子どもたちの未来を創造する－

教育委員会だより

「住むんだったら」「学んだったら」「教えるんだったら」つがる市がいい！

第 9 号

令和6年3月

つがる市教育委員会

像を想いながら、像の変化を考える

つがる市教育委員会 教育長 山谷 光 寛

例年になく暖冬少雪の冬もそろそろ終わりを告げそうだと思っていたら、3月に入り名残雪とは呼べないようなドカ雪。それも湿った重い雪。雪片付けが趣味の私も少々辟易しています。これも地球温暖化の影響なのでしょう。生まれ育った津軽の雪もその「像」を変えています。

学校現場の「像」はどうでしょうか。

デジタル教科書、学校 DX、Society5.0、1人1台端末、ICT 教育、プログラミング教育、情報活用能力、生成 AI の教育利用、部活動の地域移行、学校の働き方改革等々、次から次と新たな取り組みが始まり、教育現場では変革が求められ続けています。これらの変革は、すべて子どもたちの成長のために有益であり、変化する時代が求める力を身に付けていく上では大切なものばかりですが、60歳を過ぎた私が学校と聞いて想い浮かべる「像」とでは、変化する気候以上に大きな変化が見られます。

このような中、ふと考えさせられるのは、さて、学校とは何を目的とする場なのだろうかということなのです。

子どもたちが社会の中心として活躍する近い将来、社会が求める力を身に付けていることはとても大切です。そのために学校教育が果たす役割には大きなものがあります。

しかし、VUCA の時代と呼ばれる予測が難しい時代を生きていく子どもたちが社会から求められる力を身に付けていくためには、学校教育だけでは限界があります。

かつての「追いつき型近代化」の時代から現在は「知識基盤社会」を通り過ぎて「多文化共生社会」となっています。この時代の変化に合わせて学校の「像」も大きく変化しているわけですが、学校だけでなく子どもたちに関係するすべての組織や人々もその「像」を変えていかなければならないはずです。

とても抽象的な内容ではありますが、子どもたちが充実した人生を送るために、学校、保護者、地域社会、関係機関が力を合わせて、子どもたちのための理想の教育「像」を創り上げて行かなければならないと考えます。

「教育の不易と流行」を意識しつつ、各校の先生方、保護者の方には、今年度の学校「像」を振り返り、理想とする学校「像」、教師「像」、子ども「像」を思い浮かべた上で新年度を迎えていただきたいものと思います。

この1年間、子どもたちのために日々力を発揮してきた先生方、学校教育活動を支援していただいた保護者・地域・関係機関の方々に感謝いたします。

新年度も教育委員会は、「すべては子どものために」の言葉を忘れずに、市内小・中学校の教育活動を支援してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の取組の成果

教育総務課

保護者の皆様には、5類感染症への移行後(5月8日～)も新型コロナウィルス感染症対策等にご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。

最近においても新型コロナに加えてインフルエンザ等の感染症により学級閉鎖等の措置を取らざるを得ない場合がありますので、引き続きご家庭での感染対策等に取り組んでいただきたいと思います。

それでは、教育総務課における今年度の主な取り組みについて報告致します。

- ①学校施設の整備として、市内全中学校の音楽室にエアコンを設置したほか、小学校遊具点検の実施を踏まえて、令和6年度にブランコや鉄棒を修繕する予定です。
- ②教育施設の充実として、普通教室への大型モニター未設置の柏中学校と車力中学校への設置により、全中学校において1教室1台の整備が完了しました。(小学校は令和6年度に設置予定)
- ③スクールサポーター(支援員)30名を各小中学校へ配置しました。
- ④学校給食時に「農家の刺客ジェラート」(6種類)を提供しました。(今年度の限定事業)

◎学校給食費無償化について

本事業は県からの交付金により実施されるものですが、説明会が後日開催のため現在分かる範囲でお知らせします。

実施時期については、県が令和6年10月から実施するとしておりますので、本市も県と同様に令和6年10月から小中学校の給食費無償化を実施する予定です。このことから令和6年9月分までの給食費は今年度と同様のご負担となります。詳細については後日、学校を通じてお知らせ致します。

指導課

◎巡回型通級指導教室

つがる市では、昨年度の小学校巡回型通級指導開始に続き、今年度から中学校巡回型通級指導を開始しました。通級指導では、通常学級に在籍している児童生徒の中で、学習面や生活面、相手とのコミュニケーションなどで困り感や悩みを抱えている児童生徒を対象に、基本的に週1時間、個別または少人数で特別な指導をします。

今年度は、小学校では78名、中学校では8名が通級指導(うち巡回型通級指導は小学校39名、中学校3名)を受けました。指導を担当する向陽小学校、木造中学校の先生方のご指導と在籍校の連携した取組により、多くの児童生徒が安定して学校生活を送っており、通級指導による多くの成果が見られています。

◎教育支援センター

教育支援センターは、通所支援、教育相談、就学相談を行っています。中でも通所支援では、いろいろな理由で登校することができない児童生徒に対して、相談や支援活動を行うことにより、集団適応能力や生活意欲を高め、学校への再登校や社会的な自立を援助しております。

今年度の教育支援センターの利用者数(3/1現在)は、小・中学生合わせて延べ730人を超え、教育支援センターの果たす役割は年々大きくなっています。利用者の中には、学校への登校日数が増えたり、学校復帰を果たしたりなど、学校生活に対して前向きな姿が見られ、とてもうれしく感じています。

社会教育スポーツ課

社会教育スポーツ課では今年度の施策の柱として、「市総合体育館を核とした新たなスポーツ環境づくりと国民スポーツ大会の取組みの推進」を掲げ各施策の実施に取り組みました。その中の主な取組、成果について、報告いたします。

◎総合体育館を核として、市民がスポーツに親しみスポーツに取り組む環境づくりの整備

①管理運営体制の確立：総合体育館の管理運営について、指定管理者制度を導入しました。

◇指定管理者：Tsugaruまちづくりパートナーズ

（代表団体：コナミスポーツ(株)、構成団体：(株)つがる総合商社、(株)サン・コーポレーション）

②総合体育館利用促進：総合体育館の利用促進やスポーツに親しむ環境づくりを目的に各種イベント等を開催いたしました。

◇グランドオープン記念イベント：令和5年5月27日(土) 来場者約1,600人

◇つがるスポーツフェスティバル：令和5年10月14日(土)・15日(日) 来場者約1,600人

◇こけら落とし事業：青森ワッツ公式戦：令和5年10月7日(土)・8日(日) 来場者3,224人

東レアローズ公式戦：令和5年11月4日(土)・5日(日) 来場者1,775人

◎中学校部活動の地域移行に関する検討

①市内の全中学校長及び教育委員会各課長により構成する以下の組織において、今後の中学校部活動の地域移行について協議し、他自治体への視察状況、アンケート調査結果等について、情報共有しました。

◇「つがる市部活動の在り方検討委員会」：令和6年1月29日(月)

②教育委員会全課長及び全課の担当者により構成される以下の組織において、具体的な部活動の地域移行計画等についての協議を開始いたしました。

◇「つがる市部活動地域移行教育委員会検討会議」：令和6年2月29日(木)

文化財課

①4月に縄文住居展示資料館カルコをリニューアルオープンしました。

新たな展示コーナーやミュージアムショップを設け、縄文遺跡の総合案内施設として、県内外の多くの方にご利用いただきました。又、小・中学校の校外学習の場として活用し、「つがる市型郷土学」の取組みの1つとして、縄文遺跡を地域教材として活用しました。

②市内遺跡の出土遺物や民俗資料等を収蔵し、整理作業を行う文化財収蔵施設を旧兼館小学校から旧育成小学校へ移転し、遺物の保存環境と整理作業を効率的に行う環境の改善を図ることができました。ここでは令和3・4年度に実施した亀ヶ岡遺跡・田小屋野貝塚発掘調査の整理作業を進め、報告書刊行に向け取組むことができました。

③史跡の整備に向け、植栽・地形造成・園路・遺構表示など整備のあり方を示した「史跡整備基本計画」を策定し、今後の史跡整備への1歩を踏み出すことができました。

④世界文化遺産の亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚には、約7,400名の方が訪れ、遺跡ボランティアガイドの案内などを通じて遺跡の価値や魅力を知っていただきました。

⑤情報発信事業として、外国の方に縄文遺跡の価値や魅力を伝えるため、縄文ポータルサイトの多言語化(4か国)に取組みました。この他、両遺跡の活用のため、NPO法人つがる縄文の会や木造高校と連携した「JOMON亀ヶ岡遺跡・田小屋野貝塚まつり」や「土器づくり体験・縄文遺跡ジュニアガイド体験講座」「縄文遺跡もの知り講座」を開催し、子どもから大人まで縄文遺跡に対する理解を深めることができました。

本市児童生徒の学力の状況

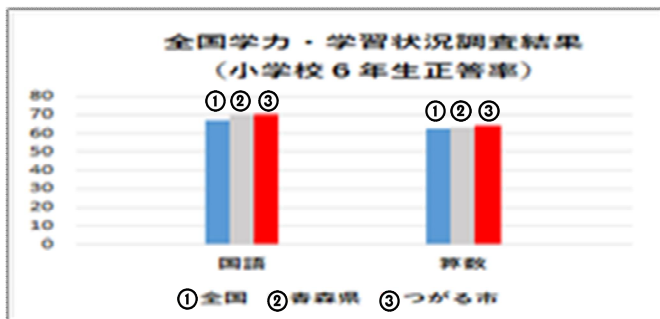
<令和5年度全国学力・学習状況調査、令和5年度青森県学習状況調査の結果より>

本市の児童生徒の学力面について、全国と県の調査結果から、これまで継続して授業改善に取り組んできた成果と課題が明らかになりました。

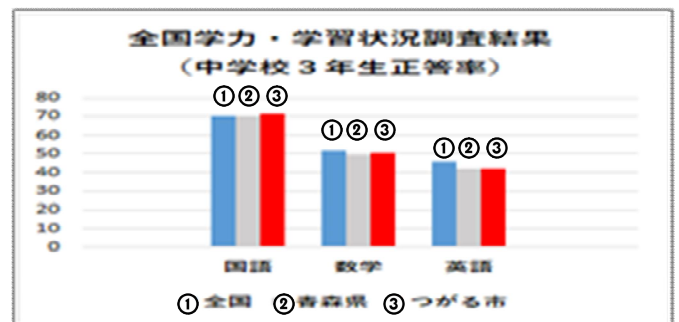
各校では、調査結果を詳細に分析し、その後の学習指導の改善等に役立てています。教育委員会としては、引き続き、各校の授業改善の取組に対して支援して参ります。

① 全国学力・学習状況調査の結果（令和5年4月18日実施）

小学校6年生を対象に、国語、算数、質問紙調査、中学校3年生を対象に、国語、数学、英語、質問紙調査が行われました。



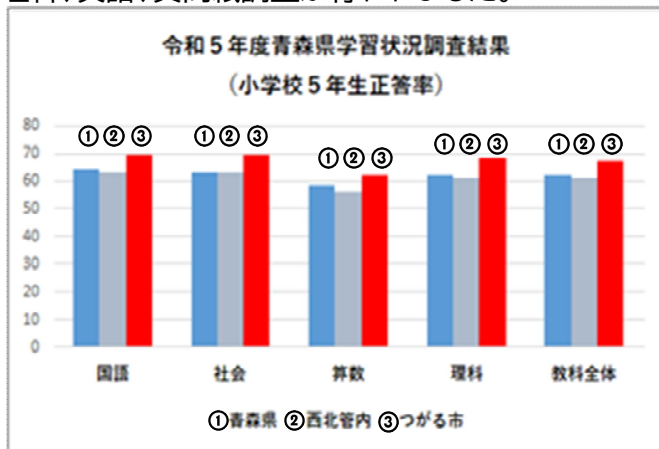
本市の小学校6年生は、国語が県平均と同等、全国平均を上回り、算数は全国及び県平均を上回る結果となりました。



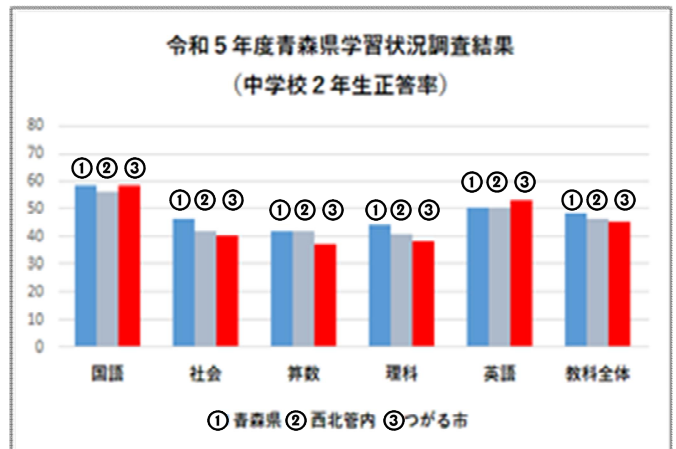
本市の中学校3年生は、国語が全国及び県平均を上回りましたが、数学・英語に関しては、県平均と同等以上ですが、全国平均を下回る結果となりました。

② 青森県学習状況調査の結果（令和5年8月30日実施）

小学校5年生を対象に、国語、社会、算数、理科、質問紙調査、中学校2年生を対象に、国語、社会、数学、理科、英語、質問紙調査が行われました。



本市の小学校5年生は、全教科・4教科全体とも、県平均を上回る結果となりました。



本市の中学校2年生は、国語は県平均と同等、英語は県平均を上回りましたが、社会・数学・理科に関しては、下回る結果となりました。